

第4期 朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定に関する地域懇談会

～朝霞の「ふくし」考えてみませんか～

実施結果報告書



©むさしのフロントあさか

朝霞市社協マスコット
アーシャ♥るくるん

目 次

I 懇談会の概要	3
II 実施結果	6
・ 第 1 回	6
・ 第 2 回	8
・ 第 3 回	10
・ 第 4 回	12
・ 第 5 回	14
・ 第 6 回	16
III 地域懇談会後アンケート集計結果（全 6 回合計）	18
IV 参考	33
・ 地域懇談会 当日使用資料	33
・ アンケート	48

令和2年 3 月

I 懇談会の概要

(1) 懇談会の目的

第4期朝霞市地域福祉計画及び第4期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたり、市民の方が普段の地域生活の中で感じていることや、地域での課題を把握するとともに、それらに対する解決策や方向性について意見をうかがい、計画策定の参考とすることを目的として実施しました。

(2) 実施日時等

	日 時	場 所	参加人数
第1回	令和元年12月12日(木)19:00~21:00	朝霞市産業文化センター	24
第2回	令和元年12月13日(金)10:00~12:00	根岸台市民センター	32
第3回	令和元年12月14日(土)10:30~12:30	朝霞市総合福祉センター	41
第4回	令和元年12月16日(月)10:00~12:00	膝折市民センター	33
第5回	令和元年12月18日(水)13:30~15:30	北朝霞公民館	31
第6回	令和元年12月19日(木)18:30~20:00	ほんちょう児童館	32

合計 193

(3) 募集方法

懇談会の募集方法は、ホームページ、ツイッター、チラシ配布を中心に行いました。チラシの配布・送付先は以下の通りです。

チラシ配布・送付先	
1. 市内企業	7. ボランティア団体
2. 市内小学校	8. 社会福祉協議会理事・監事・評議員
3. 市内福祉施設	9. 民生委員児童委員
4. 市内公共施設	10. 老人クラブ連合会
5. 第3期地域福祉活動計画推進評価委員	11. 各事業参加者・講座参加者
6. 東洋大学	12. その他

(4) 懇談会の全体プログラム

○オリエンテーション

懇談会の趣旨や地域福祉の考え方について説明を行いました。

○数字で見る朝霞市の現状について

朝霞市の人口、高齢者世帯数の推移、障害者手帳の交付状況など、具体的な統計情報を用いて朝霞市の現状について説明を行いました。



○グループワーク

前半：事例検討（KJ 法）

身近にある社会的な課題が織り込まれた5つの事例のうち、各班で選択した1つの事例について、印象に残ったり、重要だと感じた課題について考え、それらに対して、どのような取り組みをすれば解決できるかといったアイデア・意見を出し合いました。また、出されたアイデア・意見については自助（個人）・互助（近隣）・共助（保険）・公助（行政）（詳細は P46 参照）に分類し、考えを整理しました。

後半：身近な地域の課題検討（グループディスカッション）

テーマをグループワーク前半の事例から『身近な地域の気になる人』に移し、普段生活するうえで気にかけている人や生活するうえで感じる課題などについて話し合いました。

○発表会

各班で検討した内容を発表し、全体で情報の共有を行いました。

○朝霞市の身近な福祉の活動について

朝霞市内の「住民同士が協力して地域で行う一番身近なふくしの活動（互助）の状況」について説明を行いました。



(参考)「KJ 法」とは

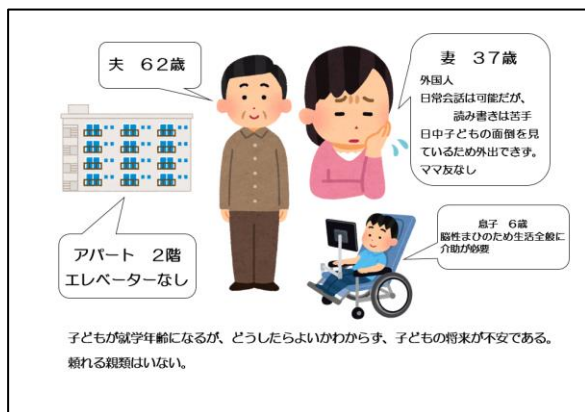
今回のグループワーク前半：事例検討は KJ 法により実施しました。

KJ 法とは、カードや付箋などを用いて、多くの情報を効率よく整理・分析するための手法です。懇談会当日は各班で出し合ったアイデア・意見を付箋に書き出し、付箋を分類分けすることでアイデア・意見の集約化・統合化を行いました。

(5) 事例検討の「事例」について

グループワーク前半の事例検討で用いる事例は以下の5つを用意しました。身近な地域で起こり得る社会的な課題に対して、「我が事」として地域住民が主体的に関わるという地域共生社会の実現に向けて事例検討を行いました。

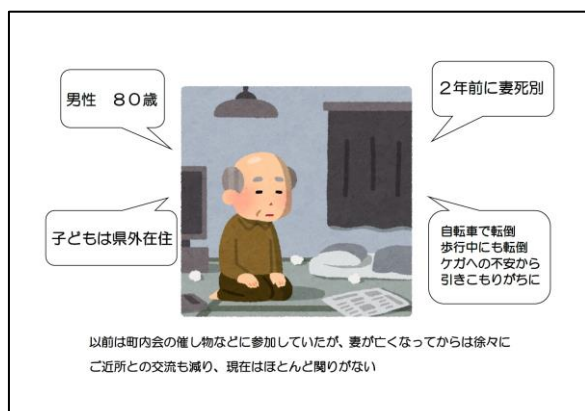
事例①<多文化共生社会の実現>



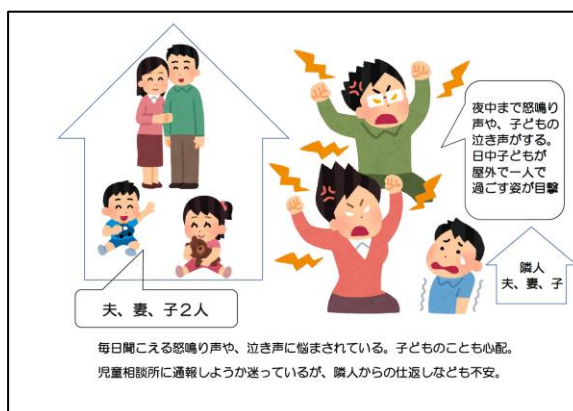
事例②<身近に迫る介護>



事例③<引きこもりをなくそう>



事例④<見て見ぬフリできますか?>



事例⑤<地域で若者を支えよう!>



Ⅱ 実施結果

・ 第 1 回

実施日時:令和元年 12 月 12 日(木) 19:00~21:00

実施場所:朝霞市産業文化センター

参加人数:24 人

事例検討:各班が選択した事例は以下の通り

【1 班】事例①<多文化共生社会の実現>

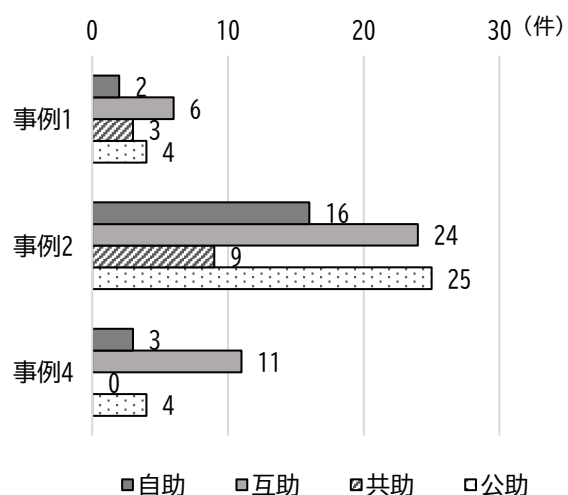
【2 班】事例②<身近に迫る介護>

【3 班】事例②<身近に迫る介護>

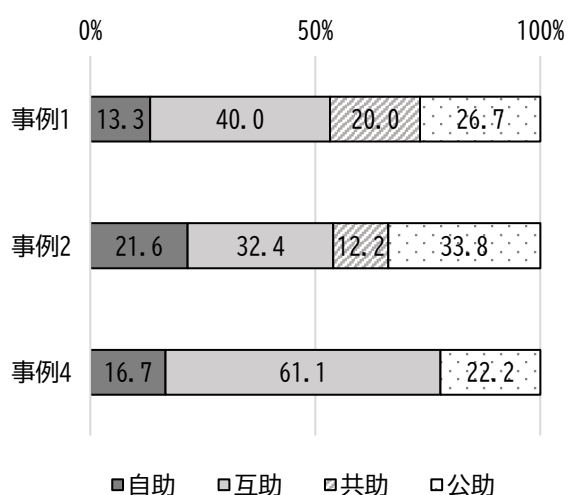
【4 班】事例②<身近に迫る介護>

【5 班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の件数



各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の割合



<事例別の主なアイデア>

【事例①】<多文化共生社会の実現>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 外国人自らが日本語を学ぶ。
互 助	● 国籍を問わず、日常的にあいさつをして人間関係を築く。 ● 外国人会（集まり）があるとよい。
共 助	● 移動手段・住まいの環境の確保に対する支援があるとよい。
公 助	● 子育て支援センター、行政機関で相談できるとよい。

【事例②】<身近に迫る介護>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 介護で疲れている事を発信できるよう地域とつながりをもつ。 ● 遠方の娘を頼るなど、家族で協力する必要がある。
互 助	● 自治会・町内会、同じ悩みを持っているサークルなどで支え合う。 ● 地域などで体操を行うなど、ストレスを発散できる場を作る。
共 助	● 介護保険の短期入所生活介護を利用する。 ● デイサービスの隣にカフェを作り息抜き場を作る。
公 助	● 地域包括支援センターや民生委員、行政などがサポートを行う。 ● 業者による見守り（新聞配達等）を活用する。

【事例④】<見て見ぬフリできますか？>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● お祭りなど、地域のイベントに参加してつながりを持つ。
互 助	● 隣近所で情報共有（怒鳴り声の回数等）等の協力をして見守る。 ● 気軽に集える場が必要である。
公 助	● 児童相談所や警察に通報する。

<身近な地域について>

- 人間関係の希薄さが気になる。
- 子どもが犠牲になるニュースが多いが、朝霞の防災無線で子どもの帰宅のアナウンスをすることは地域住民がみんなで意識して子どもを見守るきっかけになる。
- 外国籍市民が多いので、互いに生活習慣の違いを受け入れる関係づくりが必要だと感じることもある。
- 朝霞市はマンションが多く、コミュニティが作りづらい。
- 必要な情報が必要な方に届けられるような情報発信のシステム作りが必要である。
- 定年退職した男性が地域の交流の場につながりづらい。キッカケがあるとよい。
- 一人暮らしの高齢者が気になるが、関わり方が分からない。

・第2回

実施日時:令和元年12月13日(金)10:00~12:00

実施場所:根岸台市民センター

参加人数:32人

事例検討:

【1班】事例③<引きこもりをなくそう>

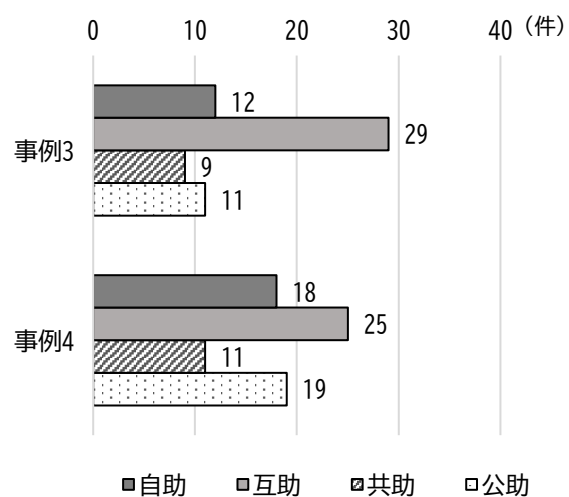
【2班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

【3班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

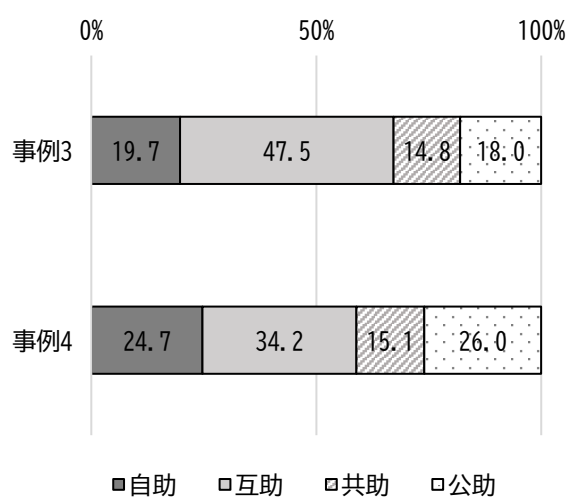
【4班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

【5班】事例③<引きこもりをなくそう>

各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の件数



各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の割合



<事例別の主なアイデア>

【事例③】<引きこもりをなくそう>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 自ら広報紙等を読み情報を集める。 ● 定期的な病院受診。 ● 安心ポット等を活用する。※安心ポットとは…無線通信機を内蔵した「電気ポット」を毎日使うだけで、離れて暮らすご家族の生活を見守ることができる「安否確認サービス」です。
互 助	● 地域からの声かけ。 ● 地域のイベント事に誘ってみる。
共 助	● 介護保険の申請するため、包括支援センターに相談する。
公 助	● 担当の民生委員に力を借りる。 ● 行政に相談し安心見守り通報システムの導入を検討する。

【事例④】<見て見ぬフリできますか?>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 自分で行政や周辺の情報を集める。 ● ママ友が作れるような場所へ足を運ぶ。
互 助	● 子どもを通じて関係作り。 ● 見かけたら声をかけてお喋りしながら困っていることがないか、不安に感じていることがないか聞く機会をつくる。 ● ポストインで地域の情報や相談先が掲載されている情報を伝える。
公 助	● 行政や警察へ匿名で相談する。 ● 民生委員に定期的な訪問をお願いする。

<身近な地域について>

- 子育て中の母親が子どもと2人だけで長い間いると、子どもにあたってしまうことが考えられる。悪循環をなんとかして止めてあげたい。
- 外国籍の子どもに対して積極的に声をかけていきたい。
- 夫婦ともに病気で倒れてしまったケース、一人暮らしの高齢者で引きこもりがちの方などには手を貸したいがSOSがないとどうすればよいか分からない。
- 地域で、男性が比較的引きこもりがちになる傾向にある。
- 同じマンション内であっても、あいさつが返ってこないケースがある。
- 最近の子どもは、SNSを通じて、近所だけではなくて様々なところに友達がいる。危険と隣り合わせではあるが、こうした共通の趣味などを通じた知り合いが、むしろ年を取ってからもつながっていく友達になるかもしれない。

・第3回

実施日時:令和元年12月14日(土)10:30~12:30

実施場所:朝霞市総合福祉センター

参加人数:41人

事例検討:

【1班】事例③<引きこもりをなくそう>

【2班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

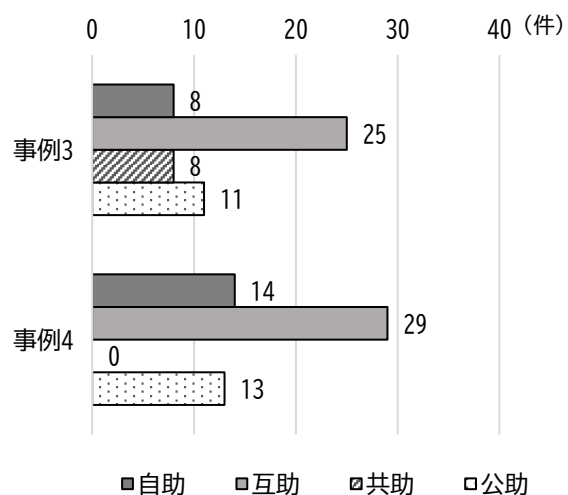
【3班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

【4班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

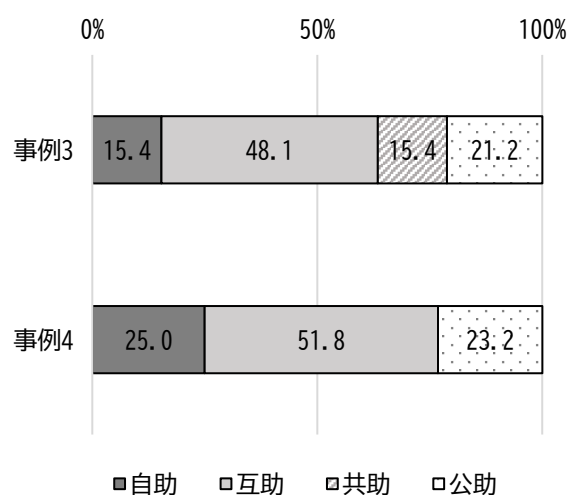
【5班】事例③<引きこもりをなくそう>

【6班】事例③<引きこもりをなくそう>

各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の件数



各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の割合



<事例別の主なアイデア>

【事例③】<引きこもりをなくそう>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 生きがいとなる趣味をつくる。 ● 家族に相談する。
互 助	● 近所で見守りや、ラジオ体操等の地域のイベントに誘ってみる。
共 助	● 介護保険の申請。 ● 通所サービスの利用。
公 助	● 行政や包括支援センターに相談する。 ● 行政に相談して安心見守り通報システムの導入を検討する。

【事例④】<見て見ぬフリできますか?>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 自分で相談窓口を探す。 ● 近隣の住民に相談できるよう、普段からあいさつをする。
互 助	● 子どもとあいさつを交わして顔を覚えてもらう。 ● 地域の催しに誘ってみる。
公 助	● 子育て支援センターや警察に相談する。 ● 民生委員に状況を伝え、様子を見てもらう。 ● 行政に相談する。

<身近な地域について>

- 老人クラブに参加し始めたことで外出機会が増え、生き生きとしている人がいる。バス利用が移動の助けになっている。
- 世代を超えて地域全体で関われる場があるとありがたい。
- 働いている人は、地域に目を向ける余裕がないケースが多い。
- 近所で虐待が疑われるケースがあるが、今後の付き合いを心配して通報をためらってしまう。
- 空き家が多くて、防犯等の面で心配がある。
- 足が不自由になると、通院や買い物の際の移動手段が課題になる。
- 若い夫婦が朝霞に転入してきてから子育てをするケースは多くあるが、それを受け入れてもらえるような近所付き合いが今後にも必要なのではないか。
- 行政の公的サービスは恐らく十分にあると思われるが、公助と自助、互助をうまくジョイントする役割が必要ではないか。それらが連携すると情報の周知も早くなる。

・第 4 回

実施日時:令和元年 12 月 16 日(月) 10:00~12:00

実施場所:膝折市民センター

参加人数:33 人

事例検討:

【1 班】事例③<引きこもりをなくそう>

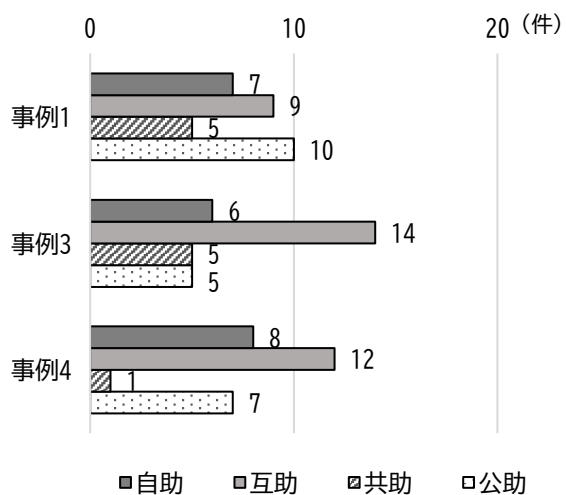
【2 班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

【3 班】事例①<多文化共生社会の実現>

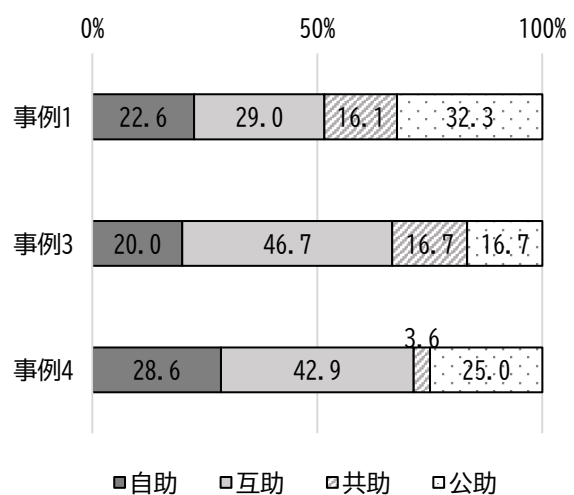
【4 班】事例③<引きこもりをなくそう>

【5 班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の件数



各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の割合



<事例別の主なアイデア>

【事例①】<多文化共生社会の実現>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 自ら公民館や児童館等に外出し、情報を集める。 ● 自分からSOSを発信する。
互 助	● あいさつから信頼を深め、相談してもらう関係性を築く。 ● 市内の子育て・障害サービス情報を伝え、一緒に相談しに行く。
公 助	● 通訳や外国語の対応ができる行政窓口の紹介。 ● 民生委員を通じて行政へ連絡する。

【事例③】<引きこもりをなくそう>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 近所の人に家族の連絡先を伝え、見守りを依頼する。 ● 家族に相談する。
互 助	● 近所で見守りや、ラジオ体操等の地域のイベントに誘ってみる。
共 助	● 介護保険の申請。 ● 通所サービスの利用。
公 助	● 行政や包括支援センターに相談する。 ● 行政に相談し安心見守り通報システムの導入を検討する。

【事例④】<見て見ぬフリできますか？>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 自分から近所に声をかける。
互 助	● 子どもの接点から声をかけて困りごとがないか聞いてみる。 ● 地域の情報を伝えながら様子を見る。
公 助	● 民生委員・行政に相談する。

<身近な地域について>

- 虐待に関係すると思われるが、夜になると夫婦げんかが始まり子どもの泣き声も聞こえる。ただ、普段話すとすごく仲がよさそうにしており、虐待の確信が持てずどう対処すべきか悩ましい。
- 昔は回覧板を手渡しだったが、今はポストに入れるだけというところが増えている。ポストに入ったままになっていると、安否確認に役立つ可能性がある。
- 最近、若い人の入れ替わりが多く、近所にどういう人が住んでいるのか把握できない。また、あいさつをしても返ってこず、関係が築けない。
- 町内会は街灯や消火器の点検や購入等をしているが、町内会に入るメリットが少ないという意見がある。

・第5回

実施日時:令和元年12月18日(水)13:30~15:30

実施場所:北朝霞公民館

参加人数:31人

事例検討:

【1班】事例⑤<地域で若者を支えよう!>

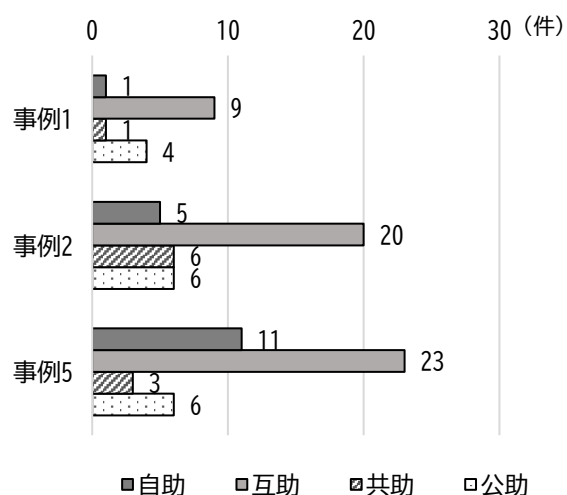
【2班】事例②<身近に迫る介護>

【3班】事例②<身近に迫る介護>

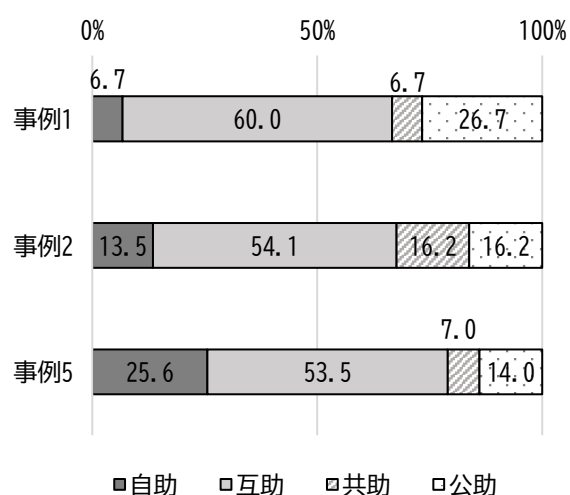
【4班】事例①<多文化共生社会の実現>

【5班】事例⑤<地域で若者を支えよう!>

各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の件数



各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の割合



<事例別の主なアイデア>

【事例①】<多文化共生社会の実現>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 「助けてほしい」と自ら声をあげる。
互 助	● 買い物、ゴミ出しなどで接する機会に挨拶や世間話をする。 ● 障害者の互助会などがあるとよい。 ● 大家さんやお隣さん等が生活のルールなどを教えるとよい。
公 助	● 市役所からの就学案内や語学補助（日本語の補助）。

【事例②】<身近に迫る介護>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 自分から情報を得て、助けてほしいと発信する。 ● 趣味や好きな事を行う。
互 助	● 日頃からの近所づきあい、見守り、声かけ。 ● ラジオ体操やあいさつ運動などの取り組みを行う。 ● 周囲が認知症サポーター養成講座などを受講し理解を深める。
共 助	● サロンやオレンジカフェなどを利用する。 ● デイサービスなどを利用する。
公 助	● 地域包括支援センターや民生委員、行政などがサポートする。 ● 施設やサービスなどの情報提供体制を整備する。

【事例⑤】<地域で若者を支えよう！>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 地域のイベントやボランティア活動等に参加し繋がりを持つ。 ● 実家に戻る。 ● 気軽に働けるアルバイトなどから始めてみる。
互 助	● 婚活（街コン）などに参加する。 ● 近所での見守り、声かけ。
公 助	● ハローワークの制度や職業訓練などを利用する。 ● ボランティア相談や行政には生活保護などの相談を行う。

<身近な地域について>

- デイサービスに通っていない時間の過ごし方や居場所などについては気になる。
- 地域で子どもの登下校の見守りをできるとよい。
- 高齢者の買い物支援などを申し出ても遠慮されることがあり、声を掛けづらい。
- 子どもへのあいさつについて、「知らない人から声を掛けられても反応しちゃ駄目」といった防犯意識の高まりもあり、交流のきっかけをつかみづらい。

・第6回

実施日時:令和元年12月19日(木)18:30~20:00

実施場所:ほんちょう児童館

参加人数:32人

事例検討:

【1班】事例②<身近に迫る介護>

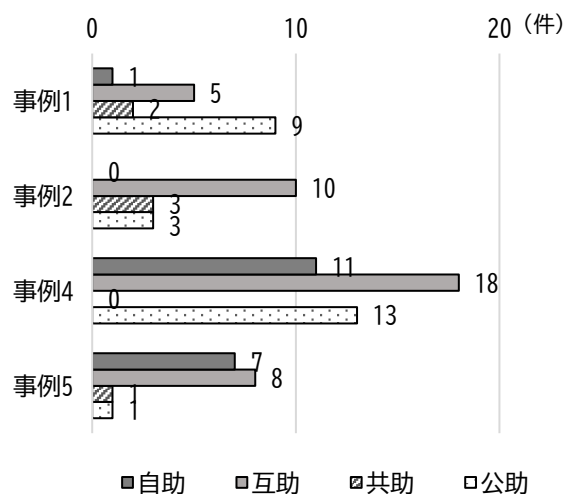
【2班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

【3班】事例⑤<地域で若者を支えよう!>

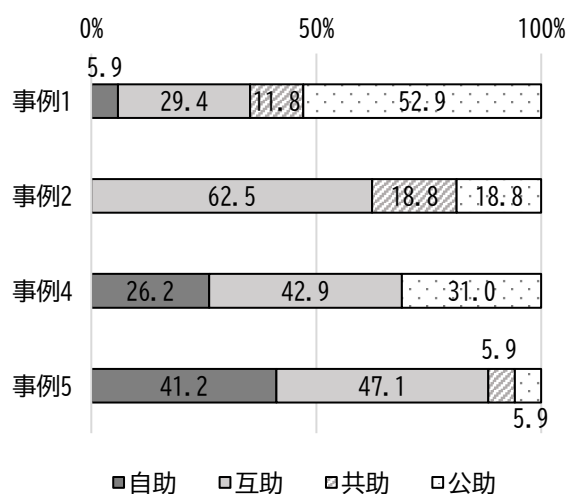
【4班】事例④<見て見ぬフリできますか?>

【5班】事例①<多文化共生社会の実現>

各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の件数



各事例別の自助・互助・共助・公助別
アイデア・意見の割合



<事例別の主なアイデア>

【事例①】<多文化共生社会の実現>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 自分自身で情報を集める。
互 助	● あいさつなどでコミュニケーションをとり、親しくなる。
公 助	● 保健センター、民生委員などが関わる。 ● 同じような人を集めたイベントの実施。

【事例②】<身近に迫る介護>

分 類	主なアイデア・ご意見
互 助	● 介護の家族の集まりに参加する。 ● 話し相手、相談相手になってあげる。
共 助	● デイサービスやショートステイを利用する。
公 助	● 行政や包括支援センターに相談する。 ● 介護のサービスを紹介する。

【事例④】<見て見ぬフリできますか？>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● お祭りなど、地域のイベントに参加しつながりを持つ。 ● 公園などに行く。
互 助	● 親のストレス解消法を検討、精神面でサポート。 ● 周りがSOSに気づく。
公 助	● 児童相談所に相談。 ● 朝霞市子育てガイドブックや児童館などを活用する。

【事例⑤】<地域で若者を支えよう！>

分 類	主なアイデア・ご意見
自 助	● 社会とのつながりを持てるようにする
互 助	● 町内会の催し物に誘いつながりを持つ
公 助	● 生活福祉資金 ● 生活保護

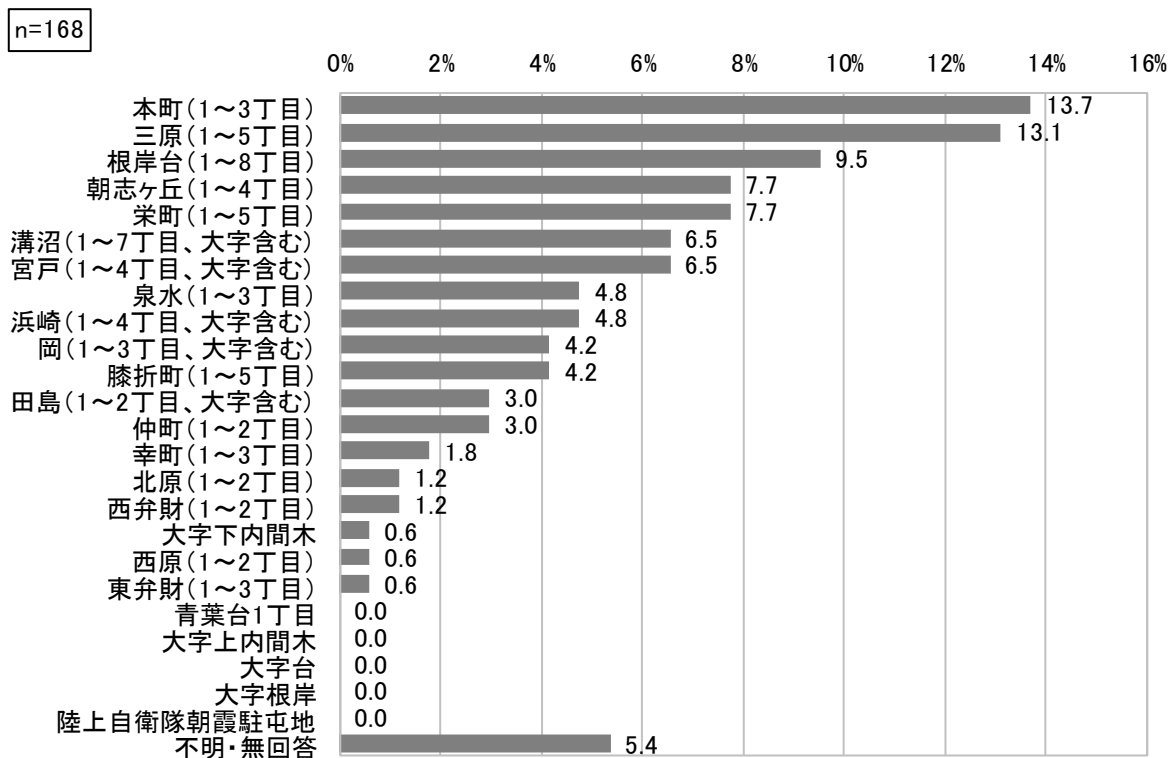
<身近な地域について>

- 近所づきあいから包括支援センターを紹介したが、何かあったら近所とタッグを組んで力になれるように話をしている。
- 母子で暮らしている。「母を施設に」は収入がなくなるので子は反対している。
- 実際に虐待と思われる場面に遭遇しても、相手からの逆恨み等を考えると直接声をかけたりするのがためられる。

Ⅲ 地域懇談会後アンケート集計結果（全6回合計）

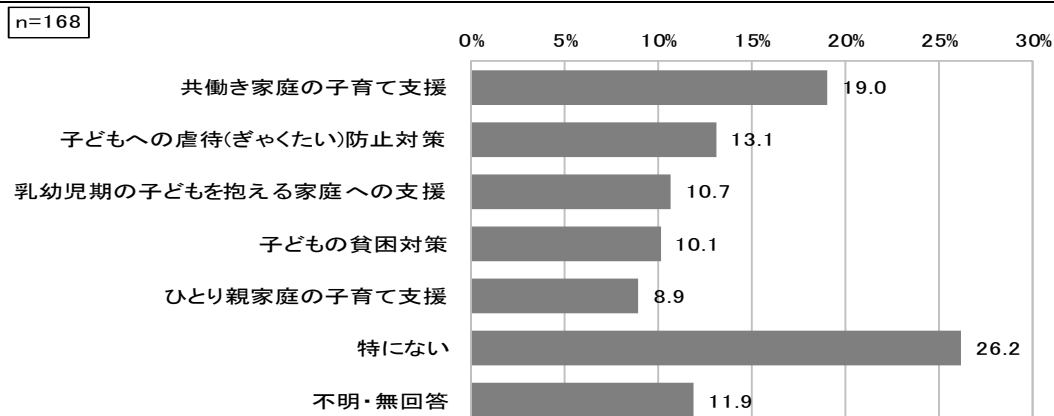
問1 あなたのお住まいはどの地区ですか。（1つに○）

住居地区は、「本町（1～3丁目）」が13.7%で最も割合が高く、次いで「三原（1～5丁目）」が13.1%、「根岸台（1～8丁目）」が9.5%となっています。



問2 子ども分野のうち、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。（1つに○）

子ども分野のうち、地域で優先的に解決しなければならない課題は、「共働き家庭の子育て支援」が19.0%で最も割合が高く、次いで「子どもへの虐待(ぎゃくたい)防止対策」が13.1%、「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」が10.7%となっています。



問3 問2で選択した課題に対してどのような取組みが必要だと思いますか。(自由回答)

【共働き家庭の子育て支援】

- 保育園や学童保育の充実（保育士の育成・手当の充実）を図る。
- 近所で臨時的に頼めるところがあると助かる。
- ちょっとした家事支援やグチを言える場をつくる。
- 挨拶をする。声を掛け合う。
- 地域ぐるみで子育てする機運づくりをする。
- 町内会の支援員を集めて、まず声掛けと悩みを聞いてあげ解決していく。
- 祖父母等頼る人が居らず母親が抱え込みがちという家庭も多い。どう解消できるかを考える必要がある。地域のつながりが必要と考えられるので、清掃活動やお祭り等に参加しやすい雰囲気づくりをして交流を図る。
- 共働き家庭で子育て支援が必要な方に届けを出してもらい支援が出来る方々との相互紹介を開催する。
- お金の不安などの解消を図り、子育てがしやすい環境づくりをする。
- 高齢者との集いの場所で一緒に参加してもらえそうな形ができるとよい。
- 子ども食堂等で児童に対して放課後に過ごせる場所を設置する。
- 公共の施設が19時までなので、その後の居場所が必要だと思う。

【子どもへの虐待防止対策】

- 見守り、気づきの為の取り組みとして、あいさつから始める地域づくりといったコミュニケーションが必要。
- 近所でアンテナを張る。声はかけなくとも見守り。保健センター、こども未来課へ連絡（通告）。親子への周りの人の理解が必要。
- 子どもの居場所を地域で作る。
- 親に学習する場所を設け、一緒に勉強してもらう。相談場所が出来るとよい。
- 親同士が互いに悩みを話し合ったり出来る場を作るなど、親に対する支援（心理的、経済的）が必要。
- ケースに応じた相談窓口の広い周知が必要。

【乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援】

- 保育園の増設。保育士の育成、ボランティアの養成、学びの場の拡大が必要。
- 保育園の入園問題や、入園児の母親の相談窓口の設置、広報の拡充が必要。

- 検索したときに必要なサービスを見つけやすいことも重要。
- 子育て世代に向けた地域（町内会）でのイベントが必要。時間はかかるがご近所間でのコミュニケーションの機会が増え、防犯・災害意識にもつながっていくと思う。
- 情報が入ってくるように子育て家族が集まれる場があればよい。
- 子育てを支援しながら親との交流も行い、地域に入れるように支援していくことが必要。
- 若い父親や母親が悩みを相談できる環境づくり。（上手く対応できないことに寄りそう環境。）
- 育児について、ひとりで考えないで、先輩の方々に相談できるような場所があるとよい。
- 親育ちを支える支援。乳幼児期の親子関係を支える取り組みが必要。
- 年長者が大きい気持ちで接することが大切。
- 教育費の支援を増やす。

【子どもの貧困対策】

- 子どもたちで集まれるサロン。子ども食堂があれば何か相談に乗れそう。
- 子ども食堂の普及、認知度の向上が必要。
- 友人が塾に行っているにも、貧困のため自分は塾に行けず悲しい気持ちになり勉強しなくなっていくと思う。
- 住んでいる地域に該当する子どもがいるかは分からないが、親の収入で子どもに不利益が生じ、将来の就労問題につながるので対策が必要だと思う。
- 貧困世帯の学習支援、制服、学用品等のリサイクル。（小・中・高）学校の教材費等の支援。大学の学費補助・支援が必要。
- 貧困にならないような給料をもらえる社会。

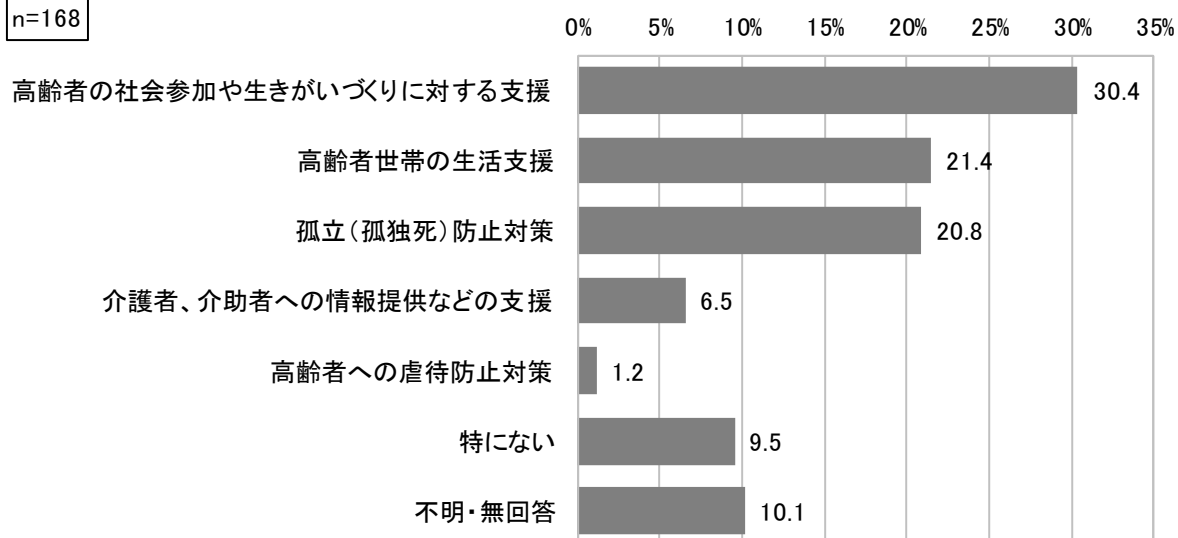
【ひとり親家庭の子育て支援】

- ひとり親が孤立しない、まちづくり。地域の協力が必要。
- 親が忙しいので、夜子どもだけの時間が心配。
- ファミリーサポートの活用。育英会の活用が必要。
- 放課後児童クラブでは、小学３年生で定員がいっぱいになり、４年生以上が入れないことがあると聞いた。外で子どもを預ける施設をしっかり組織化して、安心して子どもを預けられるように考えてもらいたいと思います。

問4 高齢者分野のうち、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(1つに○)

高齢者分野のうち、地域で優先的に解決しなければならない課題は、「高齢者の社会参加や生きがいがいづくりに対する支援」が 30.4%で最も割合が高く、次いで「高齢者世帯の生活支援」が 21.4%、「孤立(孤独死)防止対策」が 20.8%となっています。

n=168



問5 問4で選択した課題に対してどのような取組みが必要だと思いますか。(自由回答)

【高齢者の社会参加や生きがいがいづくりに対する支援】

- ボランティア活動の支援。
- 現役時代のスキルを発揮できる場所づくり（ボランティア）。
- グループ活動(趣味)、スポーツ活動参加。
- 自分が地域の活動に参加する時、友人、近所の人に一声かけて一緒に参加したり、社会参加の場の情報提供をしたりする。
- オレンジカフェ・サロンなどを増やして、声かけをして参加できるようにする。
- 高齢者が引きこもらないように、趣味等につながるような参加しやすい場を提供し、お互いに声をかけあって参加する。
- 高齢者が気楽に参加できるレクリエーション等の充実。
- 互助が大切であることをPRする。
- お互いに関心を示すようにしたい。
- 行政や民生委員等の声かけ。
- 住民同士が顔と身なりを知ることのできる活動。

- 市内交通、送迎ボランティアを充実させて、サロン等に安心して参加できるようにする。また、身近に交流できる場所をつくる。
- 朝霞に住む子育て中の方に対して、高齢者の方が何か出来ることはないのか。学童から帰るときの付き添い等。生きがいに対しては、何かを育てるなどどうか。野菜など。家から出るきっかけをつくる。
- （三原）住居地区の中に、高齢者が気楽に集まり、人とのふれあいが出来る場所（サロンとか）等々、地域の取組として必要と思います。若い方たちも同じ場所で活動することで年齢を越えた交流ができる場所になったらいいと考えます。
- 市役所の市民のつながり、コミュニケーションづくりの専門部署設置とそのための横断的な取り組み。
- 有料老人ホーム、老人保健施設、特別養護老人ホームなどで入居者が退屈な生活、閉鎖的な生活をしている可能性がある。施設ボランティアの必要性についてまず調査して実態を調べること。
- 長く自立して生きられるようにする。
- 高齢者に対して一律ではなく、個々の高齢者が望む声を聴いてほしい。
- 公民館活動などを通してつながりをもつ。
- 取り組みはいろいろなされていると思いますが、対象となる方への広報が必要だと思います。

【高齢者世帯の生活支援】（声掛けや安否確認、買い物支援など）

- 自助を強化する。挨拶、声かけ等を増やし町内会などの集会への参加につなぐ。
- 地域包括支援センター、民生委員児童委員、町内会が情報交換などの連携を通じて支援する。
- 近所の高齢化が進んでいると感じる。一人暮らしの高齢者の方もいる。緊急時に連絡する人がいない方もいる。ただし、この方は地域包括支援センターのケアマネージャーとつながりがある。
- まずは地域で独居世帯、高齢者世帯を把握して見守れるようにする。
- 支援が必要なのか、声をかけてよいか判断しかねるときがある。地震や大雨の後など必ず見に行くようにしている。もっと関わったほうがよいと思うが、図々しいのも問題だと思う。
- 福祉制度の充実、ボランティア養成、福祉費用の増加(寄付、増税など)を図る。
- 気軽に相談できる場と機関。
- 移動型ミニスーパーなどのシステムをつくり自分で買い物をできるようにする。
- 障害者施設と連携して、高齢者の買い物支援を請け負っている自治体を見たこと

がある。

- 支援プログラムの多様化による選択可能な状況を推進する。
- 半日デイ（運動型）やヘルパー事業所が朝霞には少ない。

【孤立（孤独死）防止対策】

- あいさつから始める。
- はじめの一歩として高齢者に挨拶等をして、まずは顔見知りになる。
- 「ほっといて欲しい」という人を遠くからでも見守る対応。
- 集合住宅などでの自治会未加入世帯の調査などをする。
- 孤立している方々の把握をして、ヘルパー（サポーター）を選任し、定期的見守りを実施する。
- マンション等の管理組合役員会と民生委員児童委員が連携して対応する。
- 引きこもりの高齢者に声掛け運動をしていく。
- 見守り隊を増やして巡回を頻繁にする。
- 地域で日々の見守りや声かけをする。
- 地域の交流が多くなるようにする。
- 地域のカフェへの参加。また、行事への参加を促す。
- アパート、マンション世帯は孤立しがちなので市の SNS などでもひもじい、さびしいなどのキーワードを検知する仕組みがあるとよい。
- 孤立や孤独の概念を浸透させていくこと。
- 子育て支援活動を外出のきっかけとして自らの健康につなげる。
- どなたでも必要としている人の居場所を見出しているので、出来るだけ多くの人と接していけるとよいと思っています。

【介護者、介助者への情報提供などの支援】

- 介護サービスや制度の情報は、行政や地域包括支援センター等が広報している。
- 介護者が一人でかかえこまないように講演会や勉強会を開く。
- 近所でカフェ等へ誘う。何気なく声掛けできる関係にしていく努力をする。
- 認知症か疑わしい時に一歩踏み出せるようなチームづくり。高齢者への健康管理を家族がしっかりできるように情報提供。家族へのレスパイト、相談できる体制・仲間づくりをする。
- 家族や親族にも情報が流れるように、家族や親族の連絡先の登録をする。

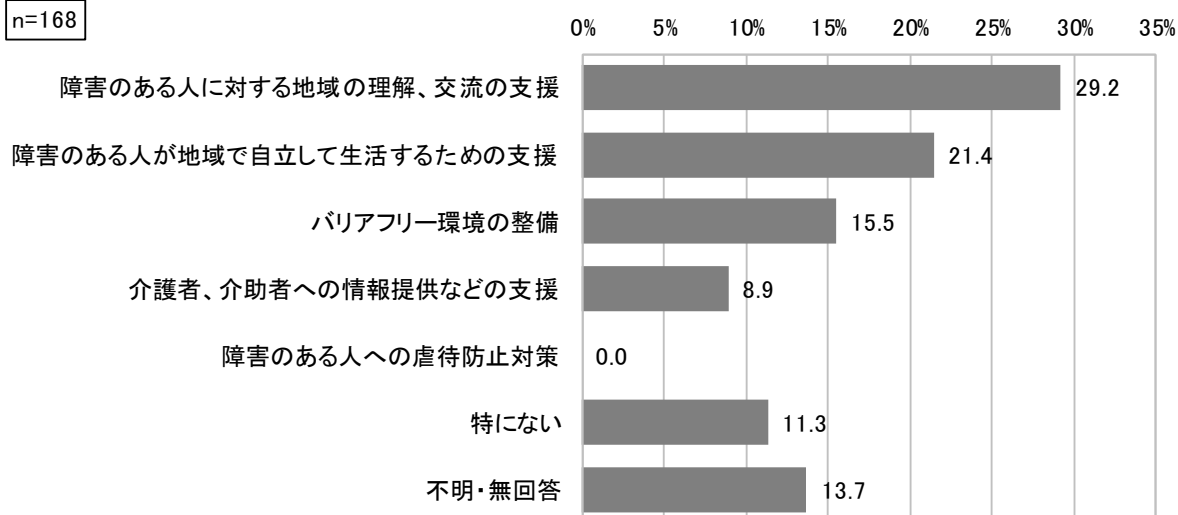
【高齢者への虐待防止対策】

- 介護者の為の支援や情報提供。
- 高齢者の親のところに、若いころから引きこもっている子どもがいることがある。そのため、日頃から身近な人とのあいさつや話ができる場があるとよい。

問6 障害者分野のうち、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(1つに○)

障害者分野のうち、地域で優先的に解決しなければならない課題は、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が29.2%で最も割合が高く、次いで「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が21.4%、「バリアフリー環境の整備」が15.5%となっています。

n=168



問7 問6で選択した課題に対してどのような取り組みが必要だと思いますか。(自由回答)

【障害のある人に対する地域の理解、交流の支援】

- 障害特性などの理解が必要。どのような障害で何が困っているかを理解していないと、どんな支援をすればよいか、自立に向けて何をすればよいか分からない。
- 地域住民を対象とした学習会の実施や、地域ボランティアの育成などを行う。
- まだ障害者は「変な人」という人も多いので、身近に接する環境がほしい。
- 身近にグループホームなどを設置し、そこに住民が関わり、地域参加の仕組みをつくる。
- 障害者の声が聴きたい。(個々の事情を十分に聴く)

- 親なき後の子どもの生活がとても心配。親同士が顔なじみになり、いろいろな情報がほしい。
- 支援員、サポート体制の充実。
- 空き家などを障害者の生活の場（作業場、日中活動の場、グループホームなど）活用できる取り組み。
- 生活範囲が広げられる環境の整備が必要。
- 高齢の親が40～50歳の障害のあるお子さんと一緒に暮らしている方が市内にはたくさんいる。市では入所施設は新たに作られない現状がある。
- 障害者雇用を促進する。

【障害のある人が地域で自立して生活するための支援】

- 障害のある方が望んでいること、どのような支援を必要としているかを理解する。
- 講座等で、障害の種類や様子などを理解する。
- 自立支援のためには正しい理解が必要。
- 子どもの頃からの教育や交流の促進を図り、日頃から関わる機会をつくる。
- 外に出てご近所の人達と困っている事など話し合える様になればよい。
- 情報が行き届かず、障害者家族は障害者家族としかなかなか輪が広がらない。

【バリアフリー環境の整備】

- 道路、歩道等の整備、段差の解消など。
- 公共施設以外でのバリアフリー化も必要。
- バリアフリー化工事の補助の拡充。
- バリアフリーにしてあるが、エレベーター内に車椅子が入らない。
- 障害者、高齢者が自立して暮らしていける街にしてほしい。
- 坂が多いので、電動車いすでも介助が必要になる可能性がある。
- 道路だけでなく、人として心の中のバリアフリーが必要。

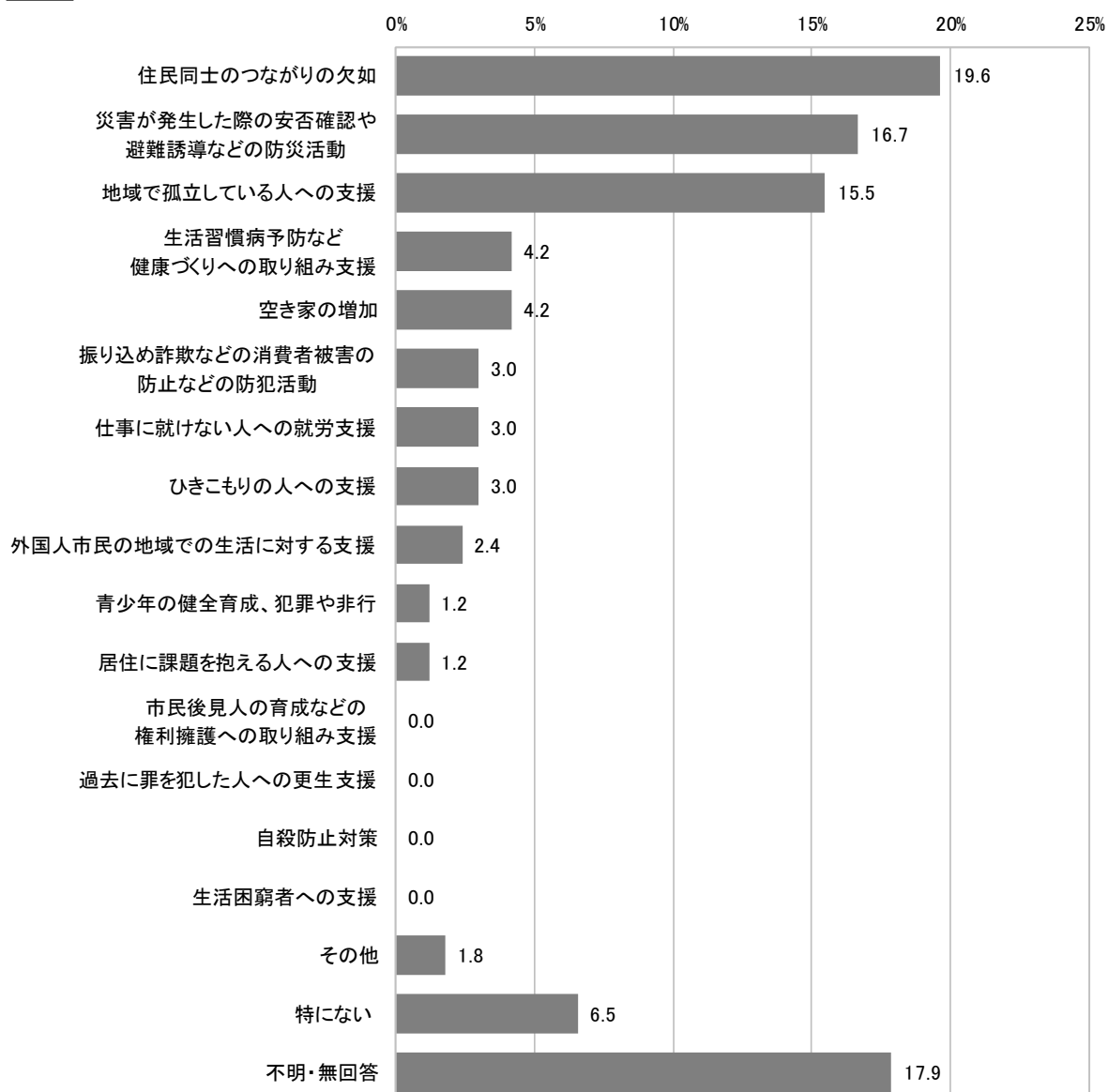
【介護者、介助者への情報提供などの支援】

- 医療機関と行政の連携の仕組み作りを強化する。
- 市の掲示板や回覧等も活用する。
- 講座、勉強会を実施する。

問8 問2、問4、問6以外で、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(1つに○)

問2、問4、問6以外で地域で優先的に解決しなければならない課題は、「住民同士のつながりの欠如」が19.6%で最も割合が高く、次いで「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が16.7%、「地域で孤立している人への支援」が15.5%となっています。

n=168



問9 問8で選択した課題に対してどのような取組みが必要だと思いますか。(自由回答)

【住民同士のつながりの欠如】

- 思いやり、自助、互助、共助、公助への理解を育む。
- 地域で繋がることのメリットを強調する。
- 日頃の挨拶、声掛けをする。
- 地域の催しを行い、参加する機会を提供していく。
- つながりの場を意図的に作る。
- 町内会などへの加入。
- 若い住民が家族で参加できるような自治会単位のイベントが有効ではないか。子ども向けイベントなどを開催し、親と子どもと住民同士の顔の見える関係ができる。
- どの年代でも、常に日頃から“つながり”を考えながら生活する。
- ボランティア活動の推進。
- 清掃活動などの住民活動に行政支援が必要。
- コミュニティづくりの専門部署を設置する。市役所内での横のつながりを持つ取り組みや関係団体との交流、支援が必要。

【災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動】

- 防災に対する関心を高めていき、近所の助け合いが必要かと思います。
- 独居の方と普段からお付き合いし、自分でも避難経路を確認する。
- 地域の実践に積極的に参加する。
- なるべくたくさんの人と顔見知りになる。
- 見守りが大切。
- 町内、近所での体制づくりが必要。
- 町内会加入の有無にかかわらず防災の方法や訓練のお知らせをして参加してもらう。
- 台風15,19号の振り返りをし、改善すべき点をクリアにすることから始めるべき。防災に関しては、点でのサポートばかりで線や面となってカバーできていないのが課題。
- 今年の災害の時のように情報があってほしい。
- 個人情報から地域の実態が分かりにくい、民生委員だけでなく住民同士で協力し合える仕組み作りが必要。

【地域で孤立している人への支援】

- 地域にどのような人が住んでいるか知る。
- 孤立している又はしかかっている人の情報の共有化。
- 声掛け、見守り、あいさつをしてご近所に関心を持つ。
- まずは隣近所の人への声掛け→支援へつなげ→必要ならば公助、互助、共助へ。
- 近所の人への助け合い。
- 地域ぐるみで協力することが大事だと思います。
- 訪ねて声掛けをするが、地域のイベント等には出てくれない。一人で出掛けている様子なので、もっと声掛けを頻繁にする。
- 若い世代、高齢世代にかかわらず、地域に出られて、住民同士のつながりができるような”場”を作ったり、行動等を行い声掛けし合っていく。

【生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援】

- 健康づくりセミナーの開催。

【空き家の増加】

- 一般住民では限界があり、解決ができないので公助の力を借りたい。
- 外廻りの手入れ。

【振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動】

- 情報交換。
- 地域でこの問題に対する集会を行い、高齢者の被害が多いという事例や防止策を学ぶことで対応ができるようにする。
- 年齢関係なく声を掛け合う。
- 個々の方々の事情をしっかりと聞いて、その方に最も適した対策を提案し、その方の納得の上、対策を取る。

【仕事に就けない人への就労支援】

- 自分に合った仕事を見つけてあげたい。人間関係のコミュニケーションが取れるように援助する。
- 講座の実施。
- 就職活動に公的資金の導入。

【ひきこもりの人への支援】

- みえない、閉じこもっている人が悩みなど何とか言葉だけでも交流発信することができればと思う。
- ポストに挨拶のビラを入れる。
- 親も一緒に支援する。

【外国人市民の地域での生活に対する支援】

- 交流の促進。

【青少年の健全育成、犯罪や非行】

- 小・中学校と連携。

【居住に課題を抱える人への支援】

- 障害や貧困など、多問題ケースが多いので、横の連携が必要と思います。
- 見て見ぬふりでなく、近所に気を配る努力。

【その他】

- 子育てしやすい環境づくり。
- 集会する場の確保、空き家の借上げ補助。
- 子どもひいては地域の安全。下校放送で”あいさつをしてみましょう”を入れてはどうか。

最後に、感想・気づいたことなどがありましたら自由にご記入ください。(自由回答)

【自由回答】

- 地域が明るくなるよう問題を持ち寄って、一つ一つ検討できる機会があればいいと思います。
- 地域の支え合いにより地域が活性化されていく事はとても素晴らしいと切に感じました。
- コミュニティづくりの専門部署などコミュニティづくりを強化してほしいです。
- 孤立してストレスを抱え、買物依存や精神科を受診している等、問題を抱えた人が悩みを共有できる自助会かコミュニティなどがほしいです。
- 不勉強できちんと意見が言えなかったので、少しずつ考えていかなければいけないと反省しました。
- やはりマンパワーが必要ですね。よい意味でのおせっかいや日本人としてのあたたかい心が必要です。
- 地域にやさしい人がたくさんいることが分かりました。しかし、障害児・施設利用者となると、それだけでハードルや壁を感じます。共に過ごすにしても、一定の知識をもっていないと相手が戸惑うと思うため、関わり方が難しいです。
- 近所のコミュニケーションが大事ですね。
- 高齢者の多いサークルを仲間と一緒に運営しています。単に楽しむだけでなく、行政、社協、包括支援センターとのジョイント機能としての役割もあることを理解しました。ありがとうございました。
- これが正しいという生き方がないので困ります。
- 20年前ぐらいの地域福祉の考え方は、公的サービスや施設がないため、いかに住民の意識を向上させるかであり、又、実際に意識が高かったように思います。現在は公的サービスが充実し、相談窓口やサービス提供機関も多数できたおかげで、何かあったら市役所へという流れが出来て、生活弱者を地域で支えるという意識がうすくなった気がします。何もなければいろいろなアイデアが出ていましたが、今はマニュアルのように解決していこうという感じがします。
- 第3期の福祉計画の評価が知りたいです。改善は大変だと思いますが、「すみよい朝霞」を一緒につくっていったらよいと思っています。
- 福祉計画策定には少し離れますが、地域の最小组織「町内会・自治会」についてもう一度行政の力で思い切った改造？が必要と強く思っています。整備を行うのは大変難しいと想像できますが、是非お願いしたいです。
- 安全が確認できれば途中行き違いがあったとしても結果オーライで良しとする。

- 地域の問題を考えている方々が多いと感じました。
- 自分なりに地域で出来ることをしていきたいです。
- 福祉と言ってもたくさんのテーマがあり、広い視野で考えていく必要があると感じました。自分も高齢になり、高齢者に対するふくしには関心がありました。
- 朝霞市は都内からのアクセスも良く、緑にも恵まれた地区であり、福祉に強く、人に優しい地区であることがアピールできれば更なる人口増加（子育て世代）が見込めると考えます。より一層の福祉サービスの充実を望んでいますし、自分も現在運営している障害者グループホームをこの地域に設立する方向で準備していくことで参画していきたいと考えています。
- 介護予防の社会資源のマップがほしいです。
- 意見を聞くだけでなく、市、社協が具体的な問題に対してどのような取り組みを考えているのかを知らせてほしいです。
- まずは自助が必要で、挨拶からお互いに顔見知りになり、発展していくことを学びました。又、外国人の生活を支援している団体や、児童館の活用等様々な機関の利用方法について学びました。
- 課題や取り組み等、なかなか考えつきませんでした。初めて会った方達と気軽に話ができたことは良かったです。
- 初めて参加させていただき、身近に感じる事が多く、自身も忙しい中、頑張らなくてはと感じました。
- どなたも熱心に意見をしていました。地域の互助がいかに大切かを改めて知ることができました。
- いろいろ勉強になりました。次回も出席したいです。
- 若い人が今後このような勉強会に出席できるとよいです。将来の朝霞が良くなるように願います。
- 自分ではなかなか一歩踏み込めないでいるので、皆さんの声を聴けて良かったです。
- 色々な地域の方々の話を聞いて、とてもよい話し合いができました。
- たくさんの市民の方が参加され、班のテーマも良かったと思います。
- ひとり親、障害、貧困等が複雑に絡み合っている家庭が適切な支援を受けられずにいる現状を丁寧に地域でサポートしていく必要があると思います。福祉は縦割りではなく、一つの課題として横断的に取り組んでいくことが求められているように感じます。
- 改めて隣近所の人達との関わりが希薄になってきた様に感じました。
- 事例を通してのグループワークは具体的でよかったと思います。

- 常日頃から人とのつながりが大事だとあらためて感じました。
- マンション住まいなのであまり書けませんでした。朝霞市の福祉がすばらしい事業が出来るよう行政と共に自分でも協力できることをやっていきたいと思いました。
- とても元気な発言力のあるシルバーの女性が多いのに驚きました。こういう方が頑張れる朝霞はよい所と実感しました。
- 一つの課題について皆で話し合うのもいいが、個人個人が話したい課題を持って参加している人もいます。そうした意見の取り上げ方を考えてほしいです。
- 本日の集会参加者に市、社会福祉協議会の考えや施策を浸透させる方法（システム）が必要。地域づくり＝組織の広がりを作り、構築することが必要です。
- グループワークは楽しかったです。自分が暮らす地域への見方がちょっぴり変わりました。
- 職員の方々の一生懸命さが伝わりました。
- このような積極的な会にかかわれる事はありがたいです。
- 皆さん、地域にいろいろな関心を持ち、大変参考になりましたが、課題に対しての取り組みを地域にどのように取り入れていくかは難しいと思います。身近なことからやっていきたいと思います。
- 自分の住んでいる地域を良くしていこうと真剣に取り組んでいる方々とのふれあいはとても良かったです。この地域福祉に関する懇談会、このような場は非常に大切なと思いました。
- 懇談会の進行、報告が社協の方だったので、予定の時間内におさまリ、よくまとまっていて聞き取りやすかったです。内容もかなり深められました。
- 活発な意見が出た中で、地域包括支援センターの情報は今後誰でも必要となる情報と感じてもらえてよかったです。
- 初めて参加しましたが、参考になりました。地域毎に課題の対応策は異なりますが、連帯感が必要ではないかと思いました。
- 12/14（土）に参加して感じたことは、年配の方が多く参加している状況だったので、今後、このようなすばらしい会は町内会単位で開催して、地域性を想像した、地域にあった内容に設定することで、この輪が大きくなり「互助の充実化」が進むと感じました。公助の前に互助が必要だと思いました。
- 地域のことをたくさん知ることができました。
- もう少し時間が取れたらよかったと思いました。
- 12月ではなく、早い季節にまた開催してほしいです。
- グループ討議の結果を聴きたかったです。全体としてはよい会議でした。

Ⅳ 参考

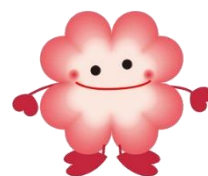
地域懇談会 当日使用資料

第4期 朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動

計画策定に関する懇談会



主催：朝霞市・朝霞市社会福祉協議会



目 次

地域福祉計画・地域福祉活動計画とは	・ ・ ・ ・ 1
数字で見る朝霞市の現状について	・ ・ ・ ・ 3
地域懇談会で出てくる言葉	・ ・ ・ ・ 12
朝霞市の身近な福祉の活動について	・ ・ ・ ・ 13

懇談会のスケジュール

1. 開 会
2. 挨 拶
3. オリエンテーション
4. 数字で見る朝霞市の現状について
5. グループワークについて（説明）
6. グループワーク
7. 発 表
8. 朝霞市の身近な福祉の活動について
9. 閉会

地域福祉計画・地域福祉活動計画とは

朝霞市の地域福祉を推進するために、市では「地域福祉計画」を、社会福祉協議会は「地域福祉活動計画」を策定しています。「地域福祉計画」は朝霞市としての地域福祉の「理念」と「しくみ」をつくる計画で、「地域福祉活動計画」は「地域福祉計画」の理念やしくみをもとに、具体的な活動内容を考える計画となります。今回、朝霞市と朝霞市社会福祉協議会では、「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」を協働で策定し、一体的に推進していきます。

地域懇談会とは

第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定に向けて、市民の皆様からご意見をいただき、計画への参考とさせていただくことを目的としています。

地域懇談会のポイント①

地域共生社会の実現に向けて

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしや生きがい、地域を共に作っていく社会を目指します。「他人事」になりがちな地域づくりを、地域住民が主体的に取り組む仕組みについて一緒に考えていきましょう。

地域懇談会のポイント②

「我が事・丸ごと」の地域作り

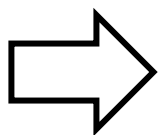
「我が事」とは、「他人事」になりがちな地域づくりを地域住民が「我が事」として主体的に取り組むこと。

「丸ごと」とは、介護、子育て、障害、病気から住まい、就労、家計、孤立等の暮らしと仕事を「丸ごと」支えること。

「我が事・丸ごと」の地域づくりのためには、「他人事」になりがちな地域づくりを地域住民が「我が事」として主体的に取り組む仕組みや、「丸ごと」の総合相談支援体制の整備を進めていく必要があります。

「我が事・丸ごと」地域共生社会づくりに関するこれまでの経緯

- 平成 27 年 9 月 「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」（「新たな福祉サービスのシステム等の在り方検討 PT」報告）
多機関の協働による包括的支援体制構築事業（平成 28 年度予算）
- 平成 28 年 6 月 「ニッポン一億総活躍プラン」（閣議決定）に地域共生社会の実現が盛り込まれる
- 7 月 「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の設置
- 10 月 地域力強化検討会（地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会）の設置
- 12 月 地域力強化検討会 中間とりまとめ
「我が事・丸ごと」の地域づくりの強化に向けたモデル事業（平成 29 年度予算）
- 平成 29 年 2 月 社会福祉法改正案（地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案）を国会に提出
「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）」を
「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部で決定
- 5 月 社会福祉法改正案の可決・成立
- 6 月 改正社会福祉法の公布
※改正の附則において、「公布後 3 年を目処として、市町村における包括的な支援体制を全国的に整備するための方策について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。」と規定。



2020 年代初頭の「地域共生社会」の全面展開を目指していく。

- 9 月 地域力強化検討会 最終とりまとめ

平成 29 年 11 月 1 日

「我が事・丸ごと」の地域共生社会の実現に向けて より抜粋

数字でみる朝霞市の現状

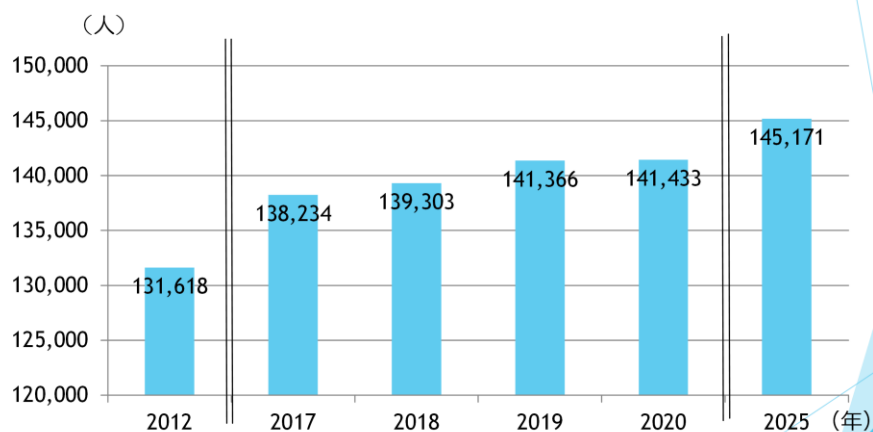
朝霞市福祉部
福祉相談課

令和元年12月



1

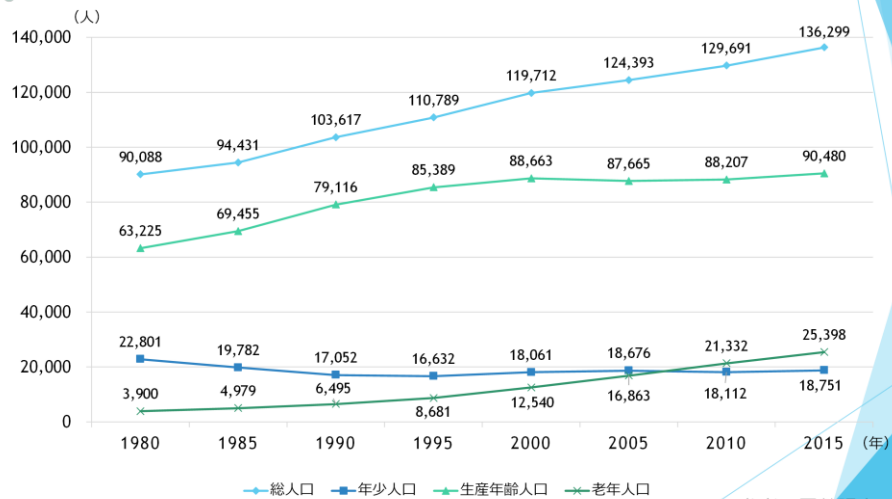
本市の総人口の推移



参考：住民基本台帳（外国人含む）（各年10月1日現在）
2020以降は推計

2

年齢3区分別人口の推移



3

本市の出生・死亡数及び自然増減の推移

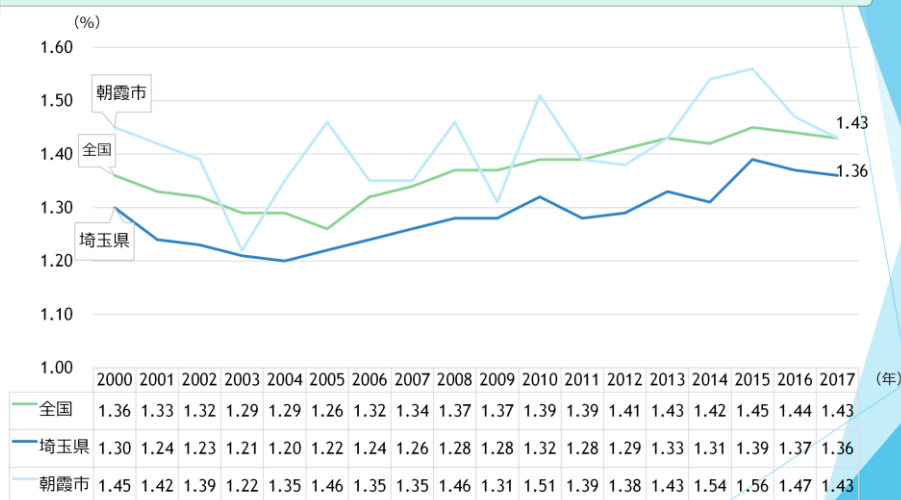
(単位：人)

西暦	2000	2010	2016	2017	2018
出生数	1,564	1,376	1,408	1,338	1,401
死亡数	514	759	910	962	993
自然増減 (出生－死亡)	1,050	617	498	376	408

参考：統計あさか

4

合計特殊出生率の推移



参考：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

5

本市の転入・転出数及び社会増減の推移

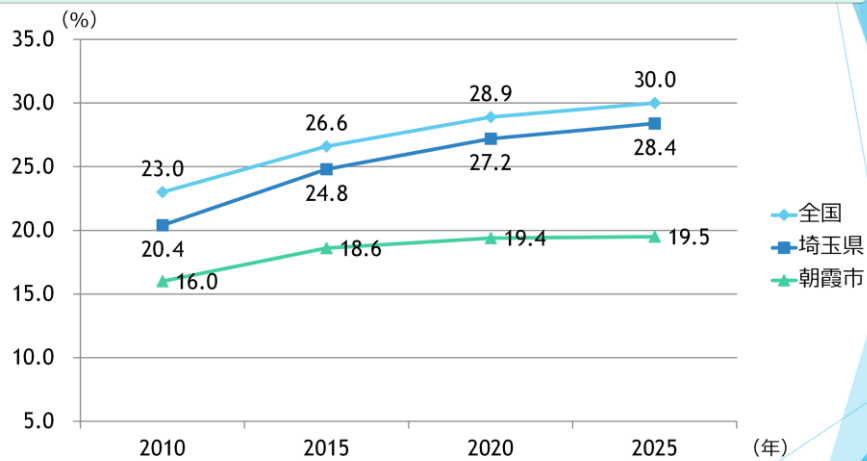
(単位：人)

西暦	2000	2010	2016	2017	2018
転入	10,687	9,182	9,383	9,981	9,838
転出	10,439	8,842	8,900	8,824	8,684
社会増減 (転入－転出)	248	340	483	1,157	1,154

参考：統計あさか

6

高齢化率（国・県と比較）



参考：(国) (県) 国立社会保障・人口問題研究所
(市) 2015までは住民基本台帳、2020以降は推計

7

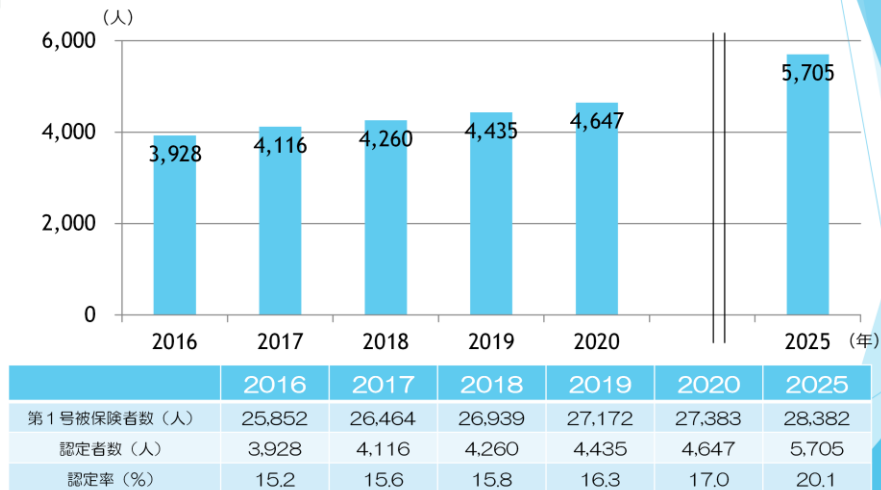
本市の高齢者（夫婦・単身）世帯の推移

	2000	2005	2010	2015	2000と 2015の比較
高齢者単身世帯	2,076	2,902	4,168	4,920	2.37倍
高齢者夫婦世帯	2,307	3,325	4,040	4,784	2.07倍

参考：総務省統計局「各年国勢調査」

8

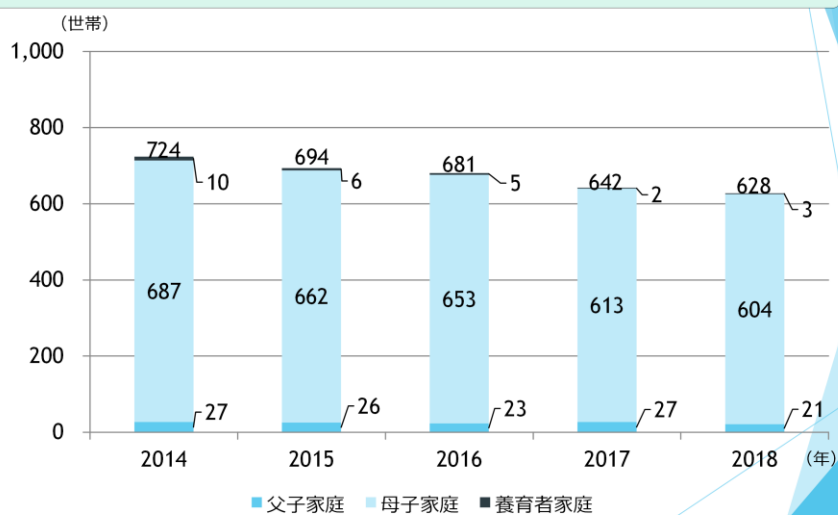
本市の要介護認定者の推移



参考：厚生労働省「介護保険事業状況報告」

9

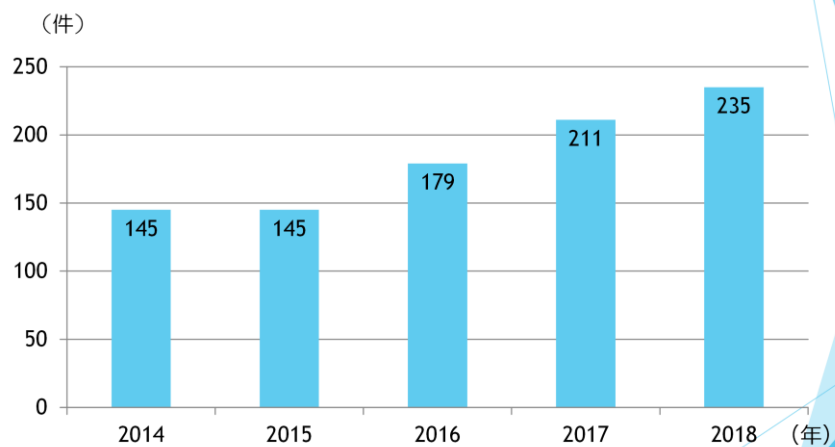
本市の児童扶養手当受給家庭数



参考：こども未来課

10

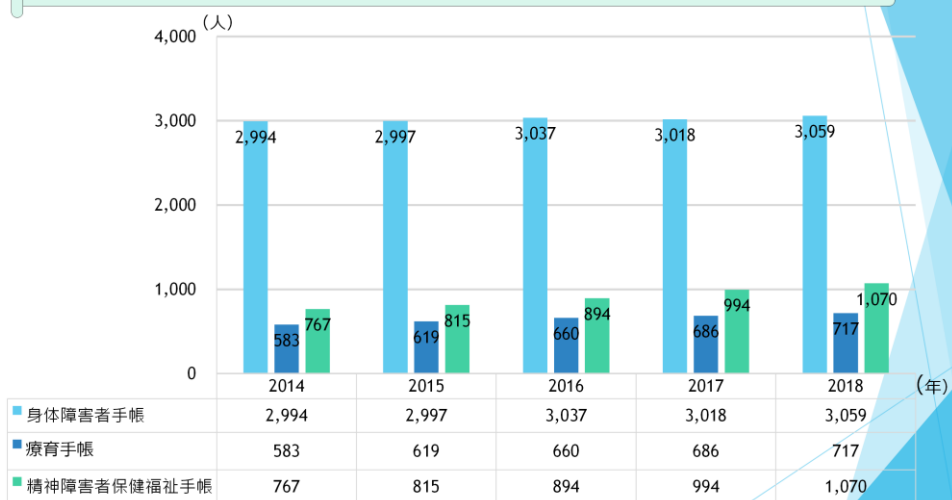
所沢児童相談所が受付けた朝霞市における児童虐待相談の推移



参考：所沢児童相談所

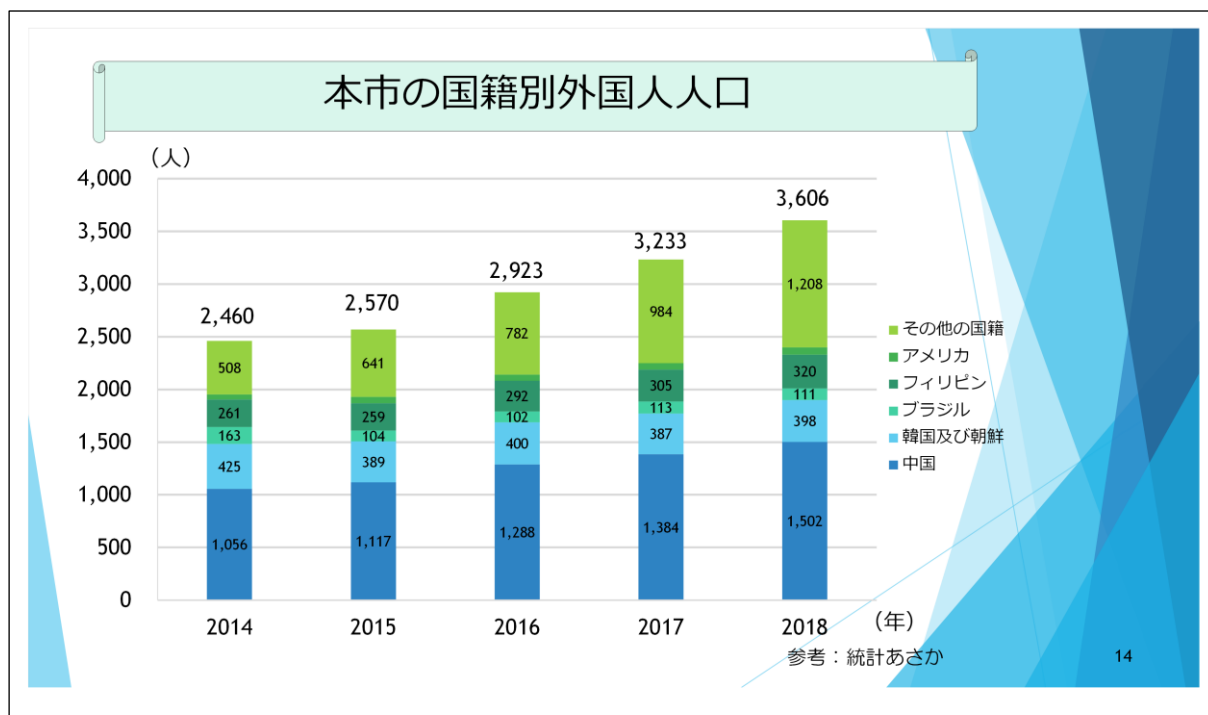
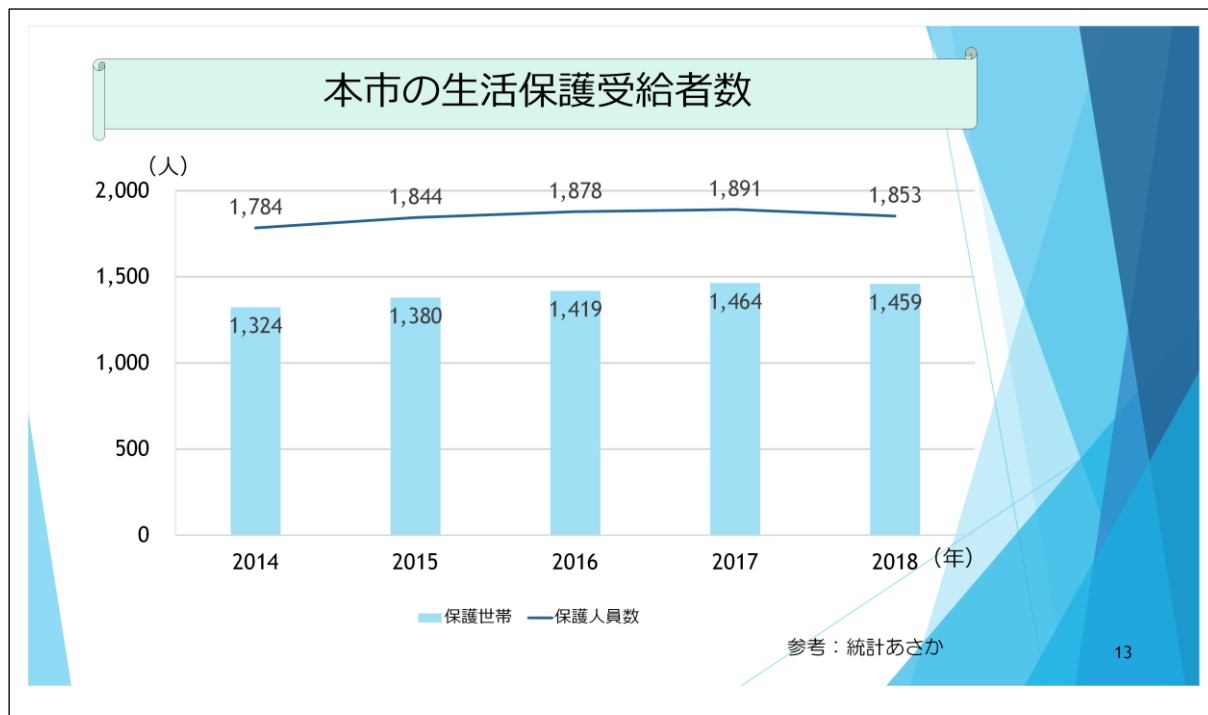
11

本市の障害者手帳交付状況

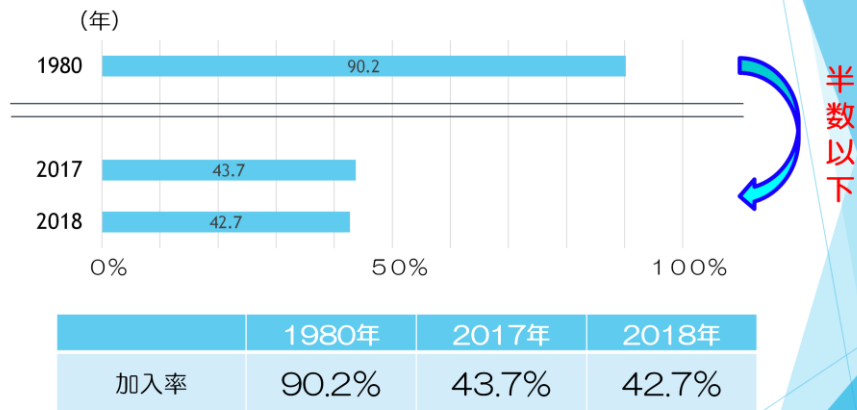


参考：統計あさか

12



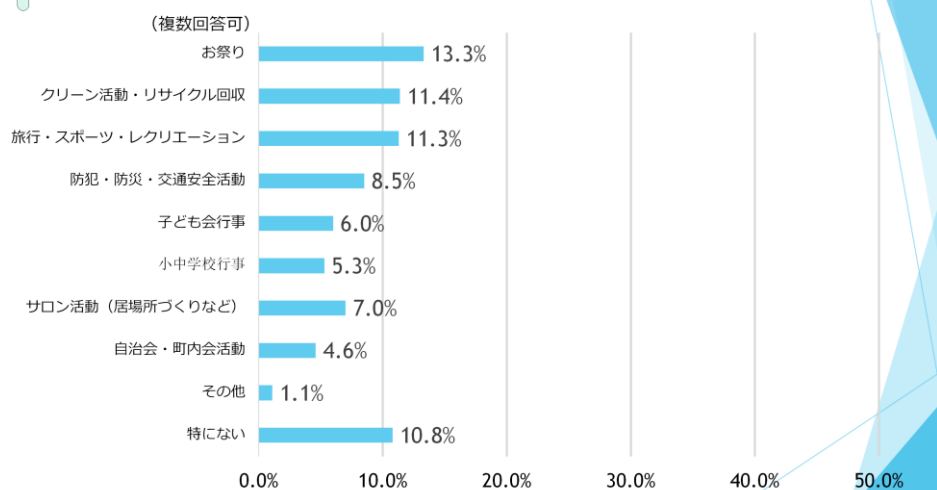
本市の自治会・町内会加入率



参考：朝霞市地域づくり支援課

15

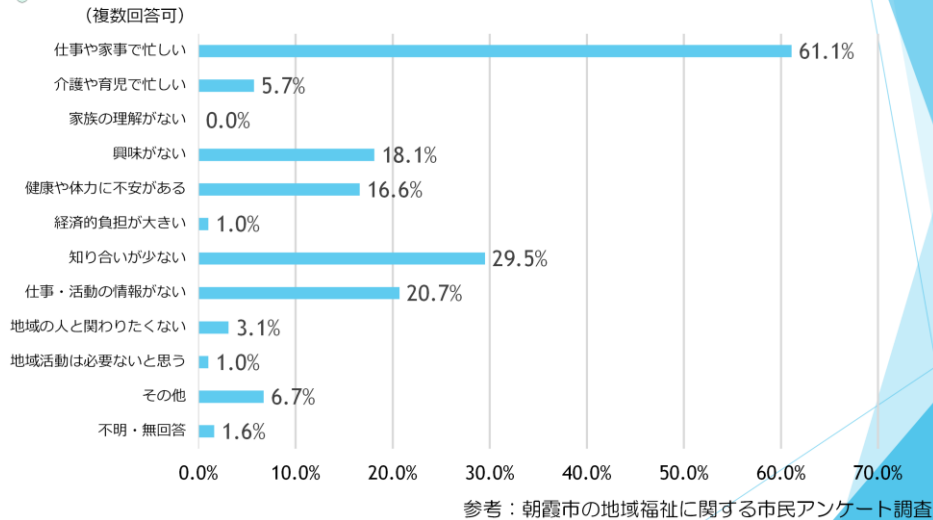
今後参加してみたい地域活動



参考：朝霞市の地域福祉に関する市民アンケート調査

16

地域活動への参加が少ない理由



17

第3期朝霞市地域福祉計画 基本理念

支えあいの心を育み、 誰もが地域でつながるまち

基本目標1 支え合い・助け合いの心づくりと仕組みづくり	
施策の方向性1 支え合い・助け合いの意識の醸成	施策の方向性2 地域福祉を担う団体の活性化・人材の育成
施策の方向性3 市民一人ひとりの参加促進	施策の方向性4 地域の交流拠点の充実
基本目標2 安全・安心に暮らせる環境づくり	
施策の方向性5 防犯・交通安全対策の充実	施策の方向性6 防災対策の充実
施策の方向性7 生活環境の整備・充実	施策の方向性8 地域での見守りの充実
基本目標3 市民の暮らしや活動を支える体制づくり	
施策の方向性9 生活困窮者への支援の充実	施策の方向性10 社会福祉の人材確保
施策の方向性11 情報共有・発信の充実	施策の方向性12 気軽に相談できる窓口の充実
施策の方向性13 多様な交流の促進・ネットワークづくり	施策の方向性14 生活課題を解決する仕組みづくり

18

地域懇談会で出てくる言葉

じじょ

自助（個人）

- ・自分で自分を助けること。自分の力で住み慣れた地域で暮らすために、市場サービスを自ら購入したり、自らの健康に注意を払い介護予防に取り組んだり、健康維持のために検診を受けたり、病気のおそれがある際には受診を行うといった、自発的に自身の生活課題を解決する力。

ごじょ

互助（近隣）

- ・家族、友人、クラブ活動仲間など、個人的な関係性を持つ人間同士が助け合い、それぞれが抱える生活課題をお互いが解決し合う力。相互に支え合うという意味では「共助」と共通するが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的な支え合いであり、親しいお茶飲み仲間づくりや住民同士のちょっとした助け合い、自治会など地縁組織の活動、ボランティアグループによる生活支援、NPO 等による有償ボランティアなど幅広い様々な形態が想定されます。

きょうじょ

共助（保険）

- ・制度化された相互扶助のこと。医療、年金、介護保険、社会保険制度など被保険者による相互の負担で成り立つ。

こうじょ

公助（行政）

- ・自助、互助、共助では対応できないこと（困窮等）に対して最終的に必要な生活保障を行う社会福祉制度のこと。公による負担（税による負担）で成り立ち、市が実施する高齢者福祉事業の外、生活困窮に対する生活保護、人権擁護、虐待対策などが該当します。

たぶん かきょうせいしゃかい

多文化共生社会

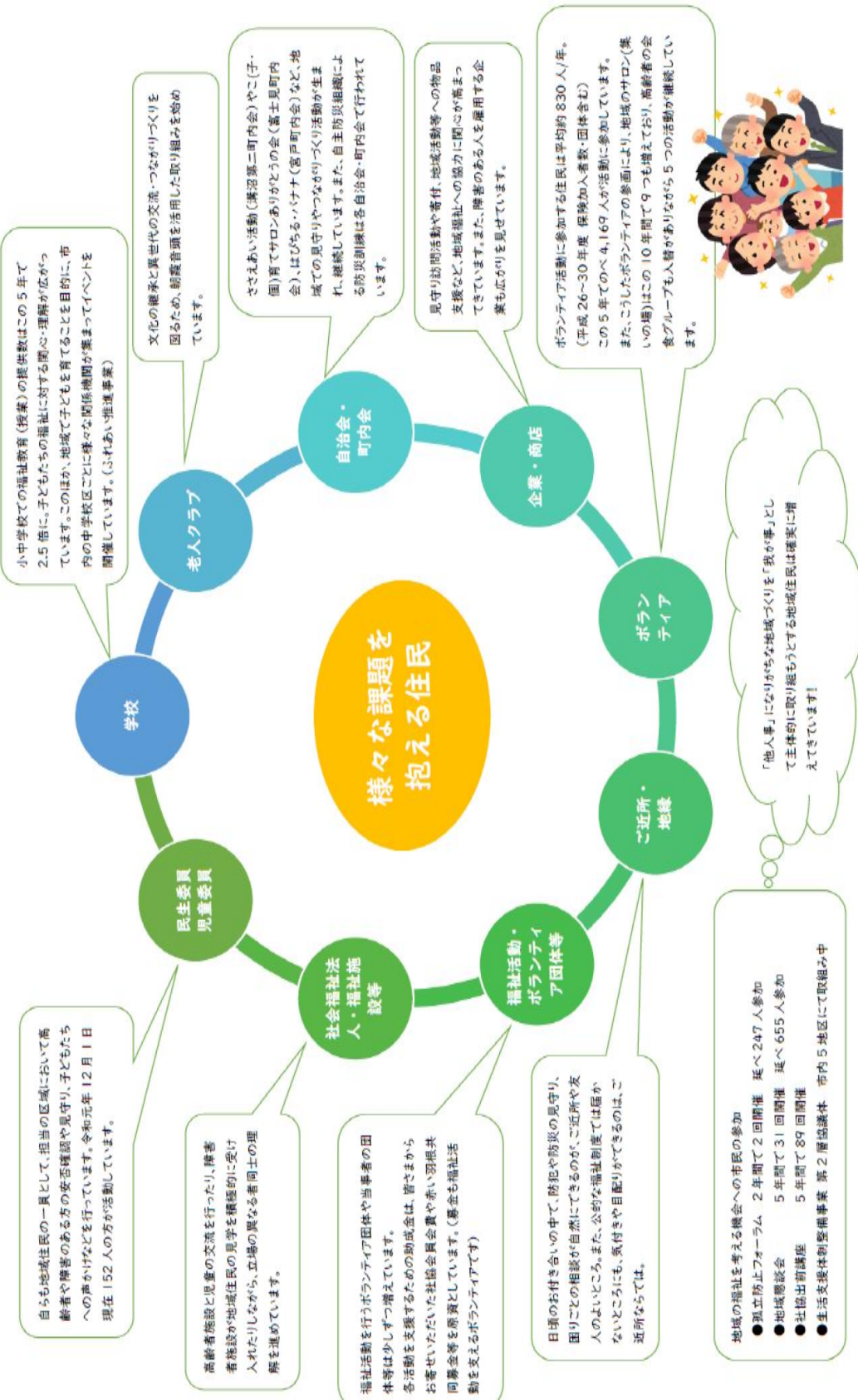
- ・国籍や民族など異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

ちいきふくし

地域福祉

- ・誰もが地域で安心して生活していくためには、地域に住むすべての人が生活しやすい地域社会をつくる必要があります。そのためには、行政などによるサービスの提供だけではなく、地域の人たちがお互いに助け合い、支え合うことが大切です。特に、近年人間関係の希薄化が進む中で、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「助け合い」「支え合い」の関係・仕組みをつくることが求められています。地域福祉とは、誰もが住み慣れた地域で、安心して自立した生活が送れるような社会を実現するための取り組みのことをいいます。

朝霞市内 住民同士が協力して地域で行う一番身近なふくしの活動（互助）の状況



アンケート

本日は、お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。今後の取り組みの参考にさせていただきますので、ご参加いただいた感想など、皆様の声をお聞かせください。

※当てはまる選択肢に○をしてください。

① あなたのお住まいはどの地区ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 青葉台1丁目 | 2. 朝志ヶ丘(1～4丁目) |
| 3. 岡(1～3丁目、大字含む) | 4. 大字上内間木 |
| 5. 北原(1～2丁目) | 6. 幸町(1～3丁目) |
| 7. 栄町(1～5丁目) | 8. 大字下内間木 |
| 9. 泉水(1～3丁目) | 10. 大字台 |
| 11. 田島(1～2丁目、大字含む) | 12. 仲町(1～2丁目) |
| 13. 西原(1～2丁目) | 14. 西弁財(1～2丁目) |
| 15. 大字根岸 | 16. 根岸台(1～8丁目) |
| 17. 浜崎(1～4丁目、大字含む) | 18. 東弁財(1～3丁目) |
| 19. 膝折町(1～5丁目) | 20. 本町(1～3丁目) |
| 21. 溝沼(1～7丁目、大字含む) | 22. 三原(1～5丁目) |
| 23. 宮戸(1～4丁目、大字含む) | 24. 陸上自衛隊朝霞駐屯地 |

② 子ども分野のうち、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. ひとり親家庭の子育て支援 | 2. 共働き家庭の子育て支援 |
| 3. 乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援 | 4. 子どもへの虐待(ぎゃくたい)防止対策 |
| 5. 子どもの貧困対策 | 6. 特になし |

③ ②で選択した課題に対してどのような取り組みが必要だと思いますか。

④ 高齢者分野のうち、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 高齢者の社会参加や生きがいづくりに
対する支援 | 2. 高齢者世帯の生活支援
(声かけや安否確認、買い物支援など) |
| 3. 高齢者への虐待防止対策 | 4. 孤立(孤独死)防止対策 |
| 5. 介護者、介助者への情報提供などの支援 | 6. 特になし |

⑤ ④で選択した課題に対してどのような取り組みが必要だと思いますか。

⑥ 障害者分野のうち、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 障害のある人が地域で自立して生活する
ための支援 | 2. 障害のある人に対する地域の理解、
交流の支援 |
| 3. 障害のある人への虐待防止対策 | 4. バリアフリー環境の整備 |
| 5. 介護者、介助者への情報提供などの支援 | 6. 特になし |

⑦ ⑥で選択した課題に対してどのような取り組みが必要だと思いますか。

--

⑧ ②、④、⑥以外で、あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(1つに○)

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. 青少年の健全育成、犯罪や非行 | 2. 地域で孤立している人への支援 |
| 3. 災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動 | 4. 生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援 |
| 5. 振り込み詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動 | 6. 市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援 |
| 7. 仕事に就けない人への就労支援 | 8. 外国人市民の地域での生活に対する支援 |
| 9. 過去に罪を犯した人への更生支援 | 10. 空き家の増加 |
| 11. ひきこもりの人への支援 | 12. 住民同士のつながりの欠如 |
| 13. 居住に課題を抱える人への支援 | 14. 自殺防止対策 |
| 15. 生活困窮者への支援 | 16. その他() |
| 17. 特になし | |

⑨ ⑧で選択した課題に対してどのような取り組みが必要だと思いますか。

--

⑩ 朝霞市では12月に地域福祉に関する懇談会を計6回開催予定です。12月開催の懇談会への参加は本日で何回目ですか。(1つに○)

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 1回目 | 2. 2回目 | 3. 3回目 |
| 4. 4回目 | 5. 5回目 | 6. 6回目 |

⑪ 最後に、感想・気づいたことなどがありましたら自由にご記入ください。

--

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました！

朝霞市社協では、福祉のまちづくりをすすめていくために、市内各地区で地域懇談会や講座などを開催していきます。地域の皆さんと一緒に、誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめていきたいと思っておりますので、ご協力を宜しくお願いいたします。



第4期 朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画
策定に関する地域懇談会

～朝霞の「ふくし」考えてみませんか～

実施結果報告書

発行年月 令和2(2020)年3月

発 行 朝霞市・社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会

朝霞市福祉部福祉相談課

住 所 〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1-1-1

T E L 048-463-1111(代)

F A X 048-463-1025

社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会

住 所 〒351-8560 朝霞市浜崎51-1

T E L 048-486-2479(代)

F A X 048-486-2480
